

「白神」世界遺産30周年 弘大講演会

奥深い自然「観察」「発見」

白川氏ノーベル賞 吉澤氏ノーベル賞、ら登壇

弘前大学農学生命科学部付属白神自然環境研究センターは4日、白神山地世界自然遺産登録30周年記念講演会を同大学内で開いた。筑波大学名誉教授でノーベル賞受賞者の白川英樹氏、北海道大学農学研究院准教授でイグ・ノーベル賞受賞者の吉澤和徳氏が登壇し、自身の経験を踏まえながら研究や発見の心得を語った。

(高松拓輝)

導電性プラスチックの発見者で、2000年にノーベル化学賞を受賞した白川氏は「自然に学ぶ」と題して講演。昆虫や植物の採集に夢中だった少年時代、白黒のペン画でしか見たことがなかった「モウセンゴケ」の実物を展示会で初めて目にしてから、それまで気づけなかったモウセンゴケを



「自然に学ぶ」と題して講演したノーベル化学賞受賞者の白川氏

「自然を知る上では観察や記録が大切とし」「初めて見る不思議や、何度も見たけどどこか違うという気づきが興味を持って観察するきっかけになる」と語った。白神自然環境研究センターの中村剛之教授も登壇し「白神山地の生態系は奥が



「昆虫少年が性の一般常識を覆すまで」と題して講演した吉澤氏

深く、また何かあるのでは専門のガイドや観察会などないかという神秘性があるの「触媒」が必要」と呼びかける。その魅力を知るには、

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。